

三菱電機 2019年度 中間報告書
2019年4月1日から2019年9月30日まで

株主通信2019

P.7 特集 | 共生社会の実現に貢献する

**三菱電機の東京2020
オリンピック・パラリンピックへの取り組み**

P.1 社長メッセージ

P.3 部門別概況

P.6 トピックス

P.10 会社情報



株主の皆さまには、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、2019年度上半期の概況と今後の取り組みについてまとめました「株主通信2019」をお届けいたしますので、ご高覧ください。

2019年12月

変革を通して、新たな価値の創出を。

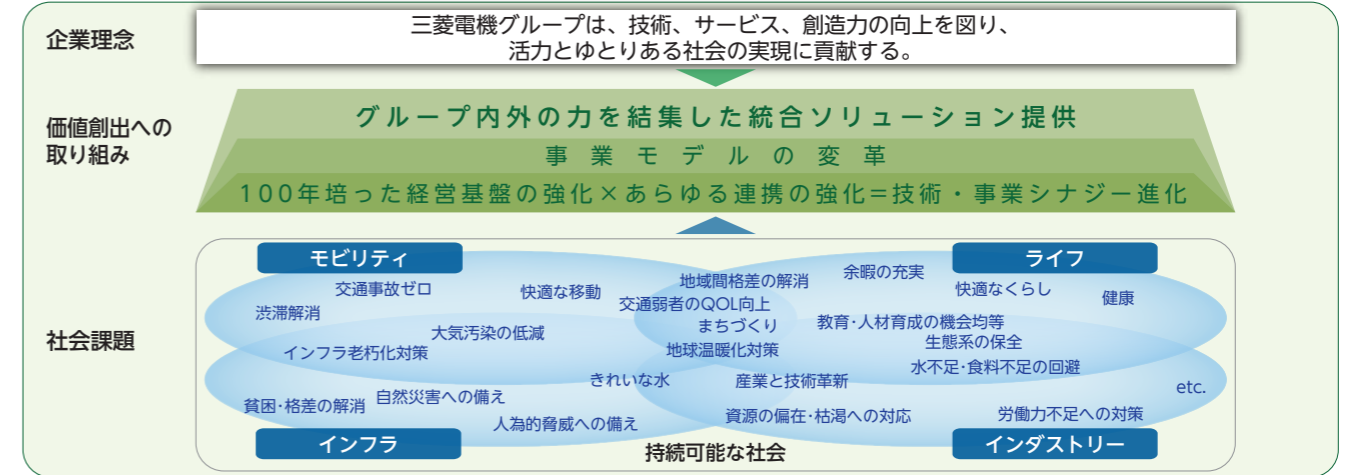
Changes for the Better

執行役社長 杉山 武史
President & CEO Takeshi Sugiyama

■ 経営戦略

《経営戦略》 多様化する社会課題の解決に向け、100年培った経営基盤の強化に加え事業モデルの変革により、ライフ、インダストリー、インフラ、モビリティの4つの領域において、グループ内外の力を結集した統合ソリューションを提供する。

*100年培った経営基盤：顧客との繋がり、技術、人材、製品、企業文化等



さらに、強固な経営体質の構築のため、資本コストを意識した経営を進めるとともに、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの強化にもグループ全体で継続して取り組んでまいります。

質のよい成長の実現に向けて

三菱電機グループは、質のよい成長の実現に向けて、技術シナジー・事業シナジーの発揮拡大と、2020年度以降の成長持続に向けた投資（研究開発、設備投資、協業・M&A等）に取り組んでまいります。

広範にわたる強い技術資産の最適な組み合わせによる「技術シナジー」や、多岐にわたる事業群の連携による「事業シナジー」の進化にあたっては、全ての現場における業務の改善・変革により経営基盤を継続的に強化するとともに、研究開発から販売・サービスまでグループ内外のあらゆる連携を強化してまいります。加えて、事業環境変化を捉えているか、課題やニーズに十分に対応できているか、強みを最大限に活かせる

いるか等の観点から、事業モデルを常に点検するとともに、よりよい姿に向けて見直しと変革を進め、顧客満足と競争優位性の向上を追求してまいります。

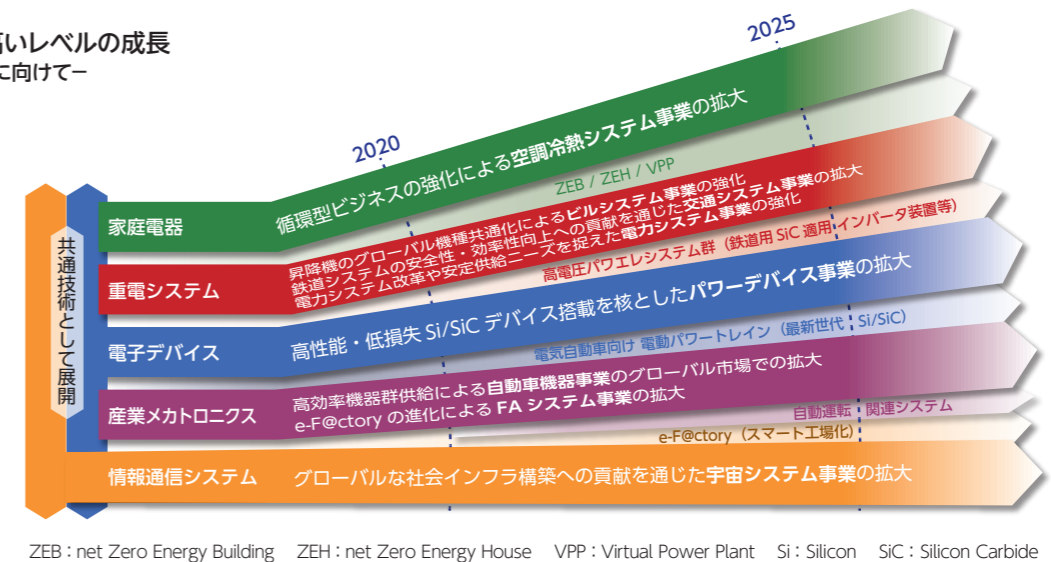
成長持続に向けた投資にあたっては、多様化する社会課題の解決に向け、バランスのよい事業ポートフォリオの構築と投資効率の向上を図りつつ、経営基盤及びグループ内外の連携の強化に資するべく、戦略的に推進してまいります。

おわりに

三菱電機グループは、「バランス経営」に基づいて経営施策を着実に実行していくとともに、コーポレートステートメント「Changes for the Better」を実践すべく、「変革を通して、新たな価値の創出を。」という姿勢を従業員全員が共有し、三菱電機グループ自身が変革し続けることで、常によりよいものを生み出し続ける企業へ成長してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■ もう一段高いレベルの成長 ー 成長持続に向けてー



*1 「7つの行動指針」:

- 「信頼」: 社会・顧客・株主・社員・取引先等との高い信頼関係を確立する。
- 「品質」: 最良の製品・サービス、最高の品質の提供を目指す。
- 「技術」: 研究開発・技術革新を推進し、新しいマーケットを開拓する。
- 「貢献」: グローバル企業として、地域・社会の発展に貢献する。
- 「遵法」: 全ての企業行動において規範を遵守する。
- 「環境」: 自然を尊び、環境の保全と向上に努める。
- 「発展」: 適正な利益を確保し、企業発展の基盤を構築する。

*2 SDGs(Sustainable Development Goals): 国連総会で採択された2030年に向けた「持続可能な開発目標」

2019年度上半期の振り返り

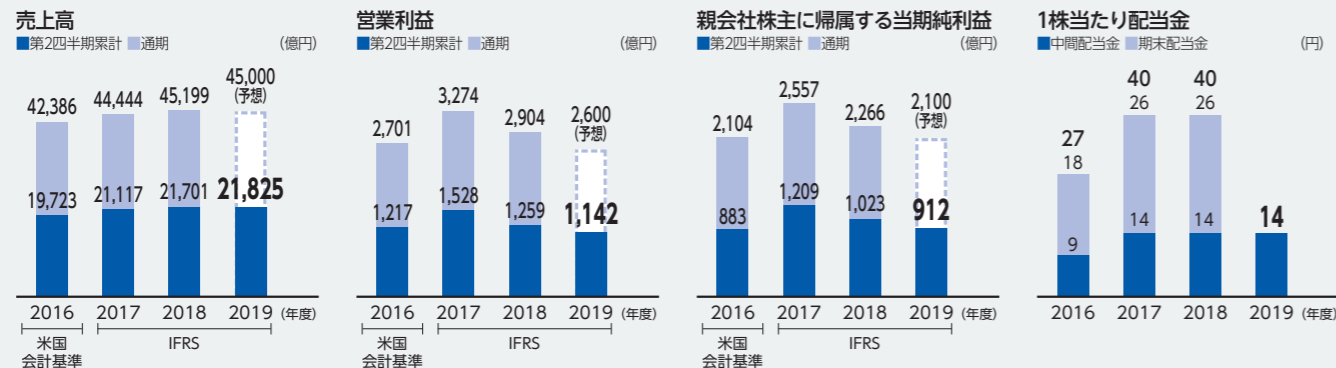
2019年度上半期(4月~9月)の景気は、中国では足元で成長が鈍化し、企業部門をみると輸出や固定資産投資が減速しました。米国では堅調な個人消費を中心に拡大が続いたものの、設備投資など企業部門が減速しました。また、日本では生産や輸出の減少、欧州でも生産の減少がみられるなど、日欧の回復基調はより緩やかになりました。

このような経営環境下において、三菱電機グループの2019年度第2四半期累計期間の連結売上高は、重電システム部門、情報通信システム部門、電子デバイス部門及び家庭電器部門の増収により、全体では前年同期比101%の2兆1,825億円となりました。連結営業利益は、産業メカトロニクス部門及び電子デバイス部門の減益などにより、全体では前年同期比91%の1,142億円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比89%の912億円となりました。

三菱電機グループの経営戦略

三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」*1に基づき、CSR(Corporate Social Responsibility)を企業経営

第2四半期累計期間決算ハイライト



*1 各予想値は、2019年10月31日に公表したものです。

*2 2019年度の期末配当金は未定です。

*3 本ページ及び「部門別概況」ページに記載の決算数値につきましては、2018年度より国際会計基準(IFRS)を適用したことに伴い、2017年度についてもIFRSに準拠した数値を記載しています。

重電システム

売上高構成比
23.9%

上半期の概況

売上高

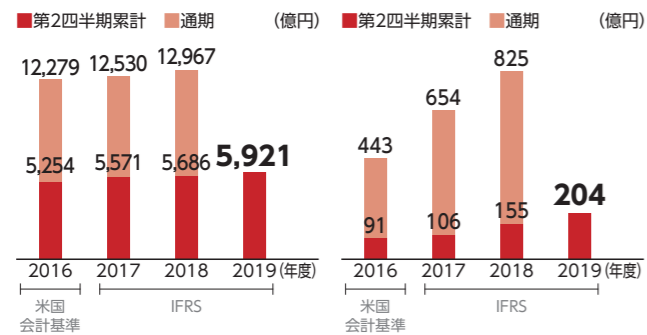
5,921 億円

前年同期比 104%

営業利益

204 億円

前年同期比 49億円増



社会インフラ事業

受注高は国内外の電力事業などの増加、売上高は国内外の交通事業などの増加により、前年同期を上回りました。

ビルシステム事業

受注高は前年同期並みとなりましたが、首都圏を中心とした国内の新設事業の増加などにより、売上高は前年同期を上回りました。

電力市場向けパッケージ型ソフトウェア製品「BLEnDer(ブレンダー)」シリーズ

「電力取引」と「需給制御」を総合的に扱う、電力市場向けパッケージ型ソフトウェア製品シリーズ。2003年の販売開始以降、各製品の機能拡張・ラインナップ追加を継続。今後も電力市場とエネルギー動向の変化を捉え、電力送配電ネットワークのスマートな運用と電力事業の拡大をサポート。



三菱標準形エレベーター「AXIEZ(アクシーズ)」

「スーパー可変速システム」や「先行階予約システム」により待ち・乗車時間の短縮を、「4カ国語ガイド*1」や「カラーユニバーサルデザイン*2」により分かりやすさ、使いやすさを実現。より上質な“おもてなし”を実現し、外国人や高齢者の方の安心・安全で快適な利用に貢献。

*1 平時:日本語・英語の2カ国語、非常時:日本語・英語・中国語・韓国語の4カ国語
*2 NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)の提唱する色覚の多様性に対応する色のデザイン



産業メカトロニクス

売上高構成比
27.7%

上半期の概況

売上高

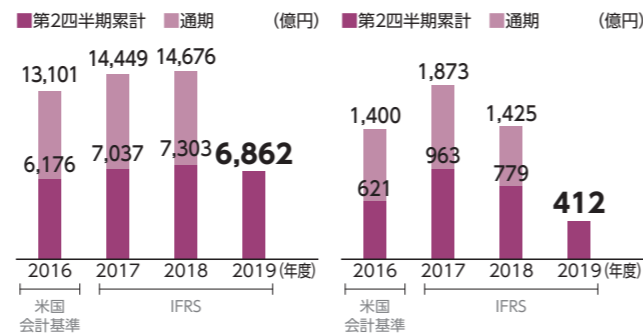
6,862 億円

前年同期比 94%

営業利益

412 億円

前年同期比 367億円減



FAシステム事業

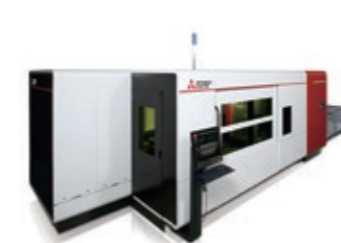
国内外の自動車関連、国内の半導体・工作機械関連、海外の有機EL・スマートフォン関連需要の停滞継続や円高の影響などにより、受注高・売上高とも前年同期を下回りました。

自動車機器事業

グローバルで市場が拡大している車両電動化関連製品の販売が増加しましたが、その他製品の国内・アジア向けの減少や円高の影響などにより、受注高・売上高とも前年同期を下回りました。

ファイバー二次元レーザー加工機「GX-Fシリーズ」

板金加工向けファイバー二次元レーザー加工機の新しいシリーズ。自社製の新型ファイバーレーザー発振器と、AIで加工条件を自動で調整する世界初*の機能「AI アシスト」の搭載などにより、板金加工の生産性・安全性の向上に貢献するとともに、自動化ソリューションのニーズに対応。



* 2019年4月10日現在(当社調べ)

コンセプトキャビン「EMIRAI S」

MaaS*社会の実現に貢献する技術やソリューションを提案するため、Shared、Service、Safetyの概念を組み合わせた新しいコンセプトキャビンを開発。最新の生体センシング技術やHMI(ヒューマン・マシン・インターフェース)技術を搭載し、安心・安全な移動と快適な車内外とのコミュニケーションを提案。



内観イメージ

* MaaS(Mobility as a Service): 移動を一つのサービスとして捉えた新たな概念

情報通信システム

売上高構成比
8.0%

上半期の概況

売上高

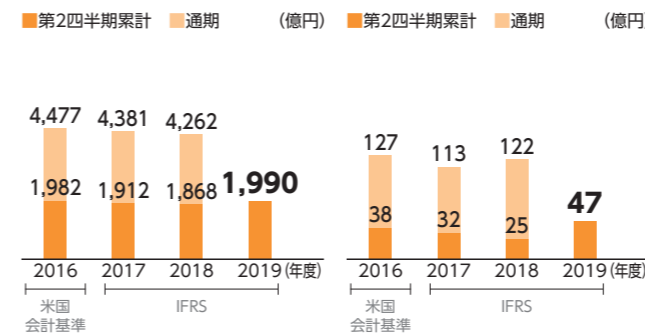
1,990 億円

前年同期比 107%

営業利益

47 億円

前年同期比 22億円増



通信システム事業

通信インフラ機器の需要増加などにより、受注高・売上高とも前年同期を上回りました。

情報システム・サービス事業

システムインテグレーション事業の増加などにより、受注高・売上高とも前年同期を上回りました。

電子システム事業

受注高は宇宙システム事業などの大口案件の増加、売上高は防衛システム事業の大口案件の増加により、前年同期を上回りました。

映像解析ソリューション「kizkia」

三菱電機のAI技術「Maisart」を実装した映像解析ソリューション。カメラで撮影された映像を自動で解析し、特定の「ヒト・モノ・コト」をリアルタイムに通知。これまで人が見ているだけでは気づけなかった事象の発見*1や、未来予測への活用*2により、安心・安全に暮らせる社会の実現に貢献。



*1 混雑状況把握、事故状況把握など
*2 マーケティング用データ収集、故障・危険予測、人の流れ分析など

光通信用トランシーバー「PONT(ポント)トランシーバー」

光通信ネットワーク装置に内蔵され、高速大容量通信を可能にする光通信用トランシーバー。高出力・高感度・省電力を実現した競争力の高い自社製デバイスを用いることにより、5Gサービスによるデータ通信量の増大やIoT社会の進展に貢献。



電子デバイス

売上高構成比
4.2%

上半期の概況

売上高

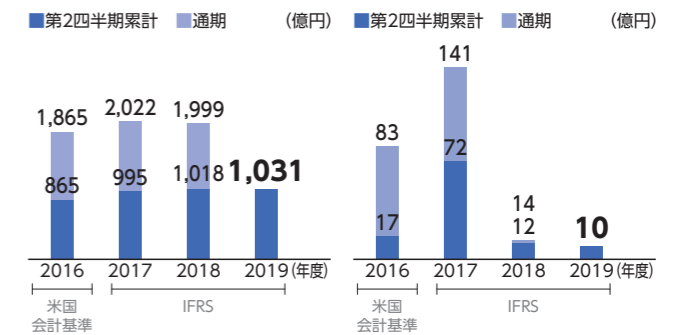
1,031 億円

前年同期比 101%

営業利益

10 億円

前年同期比 2億円減



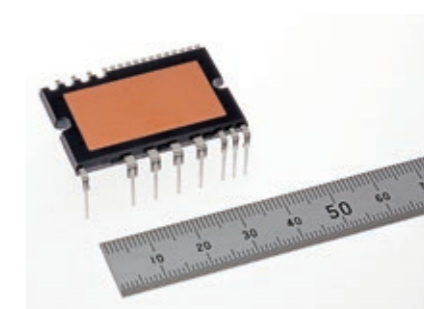
電子デバイス事業

自動車用・電鉄用パワー半導体の需要増加などにより、受注高・売上高とも前年同期を上回りました。

超小型DIIPM* Ver.7シリーズ

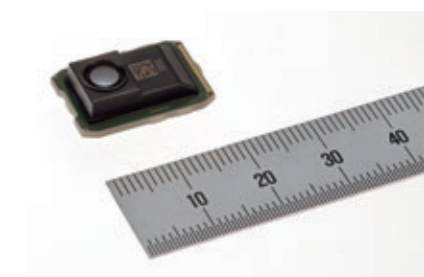
白物家電や産業用モーターをインバーター駆動するパワー半導体モジュール。低ノイズと低電力損失を両立し、幅広いアプリケーションに対応。白物家電や産業用モーターの低ノイズ化・省エネに貢献。

* DIIPM: 保護機能付き制御素子を内蔵したインテリジェントパワー半導体モジュール



サーマルダイオード赤外線センサー「MeDIR(メルダー)」

高画素化・高温分解能化により詳細な熱画像の取得を実現したサーマルダイオード赤外線センサー。防犯機器や空調機器、人数カウントソリューション、スマートビルなどの幅広い分野において、人・物の識別や行動把握の高精度化に貢献。



家庭電器

売上高構成比
23.5%

上半期の概況

売上高

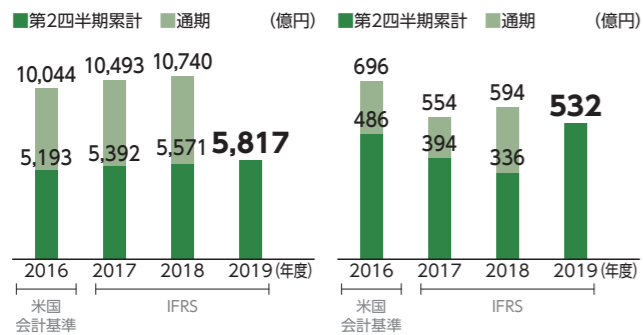
5,817 億円

前年同期比 **104%**

営業利益

532 億円

前年同期比 **195億円増**



家庭電器事業

国内・北米・欧州向け空調機器などの増加により、売上高は前年同期を上回りました。

その他

売上高構成比
12.7%

上半期の概況

売上高

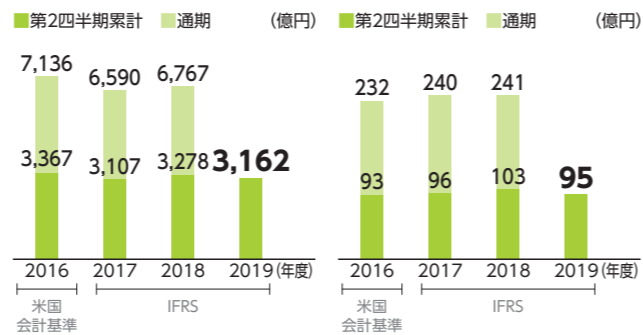
3,162 億円

前年同期比 **96%**

営業利益

95 億円

前年同期比 **8億円減**



資材調達の関係会社でのグループ向け調達の減少などにより、売上高は前年同期を下回りました。

あしたを、暮らしやすく。
SMART QUALITY

三菱ルームエアコン「霧ヶ峰 FZシリーズ」

AI技術とサーマルダイオード赤外線センサーを搭載した「ムーブアイmir AI.+ (ミライプラス)」により、世界で初めて*1、床面など風が届いた先の温度変化から風の流れと強さを検知*2し、居住空間に合わせて気流を自動最適調整することで、快適性をさらに向上。

*1 2019年11月1日現在。家庭用エアコンにおいて(当社調べ)
*2 部屋の中を360°センシングして、温風・冷風が届いた先の温度変化から、風の流れと強さを推測する技術



三菱電機店舗・事務所用パッケージエアコン「スリム ZRシリーズ」

薄型化でフラットなスタイリッシュデザインで空間への調和を実現するとともに、送風能力を高めた新型ターボファンや、人や床温度を検知し空調の自動制御に活かす「人感ムーブアイ360」の搭載により、省エネ性と快適性を向上。



4方向天井カセット形
<コンパクトタイプ>

三菱録画テレビ「REAL 4K RA2000シリーズ」

新4K衛星放送を視聴できる録画一体型の4K録画テレビ。4K高精細の高画質やクリアで臨場感のある高音質を実現。充実したネットワーク機能やスマートフォンでの録画映像再生など、生活家電としての機能や使いやすさも重視し、ユーザーに寄り添った4Kライフを提案。



三菱コードレススティッククリーナー「iNSTICK ZUBAQ」

「サッと使える」画期的な操作性や高効率の小型モーターによる高い吸引力に加え、軽さ・持ちやすさ・使いやすさをさらに追求し、回転ブラシのお手入れを簡単にするなど、「お掃除を、まるごと軽くする。」を実現。

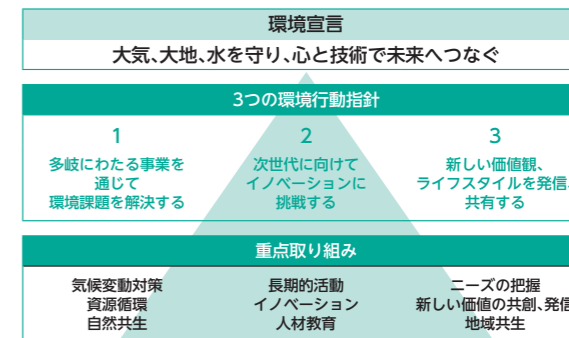


コードレススティッククリーナー
iNSTICK ZUBAQ

三菱電機グループ「環境ビジョン2050」策定

2019年6月、2050年に向けた三菱電機グループの環境課題への取り組み姿勢を定めた「環境ビジョン2050」を策定しました。三菱電機グループではこれまで2021年を目標年とした「環境ビジョン2021」を目指して活動を推進してまいりました。「環境ビジョン2050」では、環境貢献を重要な経営課題と位置づけ、より長期的な視点で環境課題の解決に率先して取り組むことを定めています。具体的には2050年に向けた環境宣言「大気、大地、水を守り、心と技術で未来へつなぐ」のもと、「3つの環境行動指針」に基づき実現していくための「重点取り組み」を示しています。現在とこれからの困難な課題に対してもグループ内外の力を結集し、持続可能な未来に向けた価値創出を推進してまいります。

環境ビジョン2050



ラオス昇降機事業会社設立

2019年6月、経済成長が見込まれるメコン地域における昇降機事業強化の一環として、当社子会社Mitsubishi Elevator (Thailand) Co., Ltd. (三菱エレベーター (タイ) 社) の出資により、MELCO Elevator Lao Sole Co., Ltd. (メルコ・エレベーター・ラオス社) を設立しました。新会社により販売の強化を図るとともに、高品質な保守サービスを提供することによって、2023年度にラオスでの昇降機事業の売上高4.2億円(2018年度比 約1.5倍)を目指します。

当社は、成長の著しいメコン地域の新興市場であるカンボジア、ミャンマーにおいても昇降機事業を展開しており、今後さらに事業の拡大を図ってまいります。



メルコ・エレベーター・ラオス社 外観

熊谷ラグビー場向けに「オーロラビジョン」を納入

2019年8月、「熊谷ラグビー場」(埼玉県熊谷市)のサブビジョン向けに大型映像装置「オーロラビジョン」を納入しました。当社が2018年8月に納入した国内ラグビー場最大級となるメインビジョンとあわせ、国内ラグビー場初の2面スクリーンとなり、高精細・広視野角LEDの採用により場内スタンド席からの視認性を向上するとともに、鮮明で迫力のある映像を提供し、会場全体を盛り上げます。



メインビジョン(2018年納入)

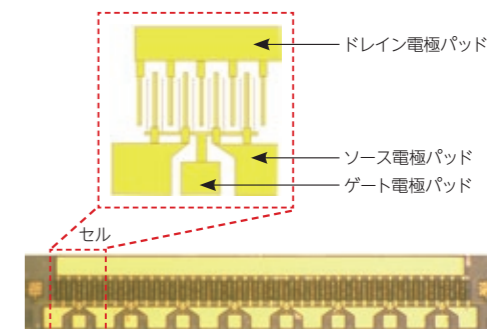


サブビジョン(2019年納入)

世界初、単結晶ダイヤモンド放熱基板を用いたマルチセル構造のGaN-HEMTを開発

近年、移動体通信基地局や衛星通信システムの高周波電力増幅器は、小型・軽量化や高効率化などのため、高出力で高効率なGaN-HEMT*1の適用が拡大しています。当社は、2019年9月、国立研究開発法人産業技術総合研究所との共同研究により、高い熱伝導率を持つ単結晶ダイヤモンドを放熱基板に用いた放熱性を高めたマルチセル構造*2のGaN-HEMTを世界で初めて*3開発*4しました。本開発により、高周波電力増幅器の出力の増加と電力効率の向上を実現し、第5世代(5G)移動体通信基地局や衛星通信システムの省エネに大きく貢献します。

*1 Gallium Nitride - High Electron Mobility Transistor: 窒化ガリウムを用いた高電子移動度トランジスタ
*2 複数のトランジスタセルを並列に配置する構造
*3 2019年9月2日現在(当社調べ)
*4 本成果の一部は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託業務の結果、得られたものです。



開発したGaN-HEMTの上面写真(下)とセル構造(上)

三菱電機は、2020年度に創立100周年を迎えます。2020年度とその先の未来に向けて、東京2020オリンピック・パラリンピックのオフィシャルパートナー*になり、エレベーター、エスカレーターなどの製品を通じた施設のバリアフリー化やアスリート支援・障がい者スポーツの普及・啓発を通じた共生社会実現への貢献を目指した取り組みを展開しています。

*三菱電機は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルパートナー(エレベーター・エスカレーター・ムービングウォーク)です。

東京2020大会のビジョンとコンセプト

「スポーツには世界と未来を変える力がある。」をビジョンに、「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、「そして、未来につなげよう(未来への継承)」を3つのコンセプトとし、史上最もイノベティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会とすべく準備が進められています。

三菱電機グループの企業理念

三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する。

取り組みの方向性

当社は、東京2020大会に向けた課題や民間企業に期待する声を大会関係者から伺い、実施施策を検討・実行してまいりました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、東京都、政府、東京2020パートナー企業などの皆さまと連携してこれら施策に取り組むことで、大会の成功と「障がいのある方もない方も、あらゆる人がお互いを尊重し認め合う『共生社会』の実現に貢献」するとともに、これを2020年以降も当社及びグループ会社に残るレガシーにすることを目標としています。具体的な取り組みは以下のとおりです。

競技に集中できる環境整備

競技引退後のセカンドキャリアを心配するアスリートの不安解消や、アスリートが競技に集中できる環境を作るため、当社はJOCのアスナビ*を通じ、オリンピック・パラリンピックを目指すトップアスリートを採用しています。アスリートとしての多様な経験や価値観を業務に活かし、貢献してもらうことも採用の目的のひとつです。

*アスナビ:JOC(日本オリンピック委員会)が主催するアスリートの就職支援プログラム



土井畑 知里
トランポリン

ワールドカップ2019 アゼルバイジャン大会
個人3位(2019/02)



宇山 賢
フェンシング・エペ

フェンシング男子エペワールドカップ アルゼンチン大会
団体戦優勝(2019/03)



大井 一輝
アーチェリー
リカーブ

第67回 全日本実業団大会
個人準優勝(2019/07)



西村 莉子
陸上競技
やり投

第66回 全日本実業団対抗陸上競技選手権大会
やり投 4位(2018/09)



小黒 義明
スピードスケート・
ショートトラック

第38回 東日本ショートトラックスピードスケート選手権大会
3000M 優勝(2018/11)

上山 友裕 アーチェリー リカーブ

上山選手は東京2020パラリンピックのアーチェリー リカーブ個人の日本代表に内定*しました。前回のリオ2016パラリンピックの同種目で7位入賞、東京2020パラリンピック出場枠の獲得を目指した2019年6月の世界選手権では、個人6位入賞を果たしました。



*競技団体が日本パラリンピック委員会に推薦。東京2020パラリンピック代表選手の決定は日本パラリンピック委員会による。

丸茂 圭衣 アーティスティックスイミング

リオ2016オリンピックの銅メダリスト。2019年9月に現役を引退しましたが、現在も当社で勤務しています。



三菱電機 Going Up キャンペーン

2016年10月から、車いすバスケットボールをはじめとする様々な障がい者スポーツの体験イベント「三菱電機 Going Up キャンペーン」を開始しました。このプロジェクトを通じ、より多くの方に障がい者スポーツを身近に感じていただき、共生社会の理解を深めるべく取り組んでいます。

Going Up キャンペーン 全国キャラバン

2020年に向けて、47都道府県での実施を目指しています。既に42都道府県にて実施しており、参加者数は10万人を超えました。(2019年11月現在)



Going Up キャンペーン for School

Going Up キャンペーン 全国キャラバンを小学校向けにアレンジしたプログラム。子どもたちの共生社会への理解促進に貢献することを目的に展開しています。(体験者32校、2,803人、2019年9月末現在)



三菱電機 Going Up セミナー

従業員の「心のバリアフリー」への理解を促進するために、2017年10月から「三菱電機Going Up セミナー」を開講しました。

パラリンピックや障がい者スポーツの価値を知り、サポートが必要な方へのコミュニケーションやマナーについて学びます。また、心身の特性や考え方を理解し、人格と個性に配慮した行動をする「人権の尊重」について考える意識啓発を実施しています。



セミナーの様子: 視覚障がい者の誘導体験

障がい者スポーツを題材とした広告宣伝活動

障がい者スポーツの普及啓発を図るため、「ひとつ上の自分へ。」をキャッチコピーとして、当社東京2020イメージキャラクターの鈴木亮平さんが出演する新聞広告、テレビCM、動画コンテンツを制作しています。



キャッチコピーについて

広告宣伝活動で使用しているキャッチコピー「ひとつ上の自分へ。」は、「Changes for the Better」の精神を基に、東京2020大会に向けた当社の企業姿勢を端的に表現したものです。

このキャッチコピーを基に、「Going Up」というキャンペーンワードを設定し、体験会やセミナーなどの活動の名称に使用しています。「Going Up」はエレベーターが上昇する際に流れる英語のアナウンスであり、東京2020大会における当社の協賛カテゴリーであるエレベーターに関する言葉となります。

当社のオリンピック・パラリンピックに向けた取り組みについては、当社オフィシャルウェブサイト上にも掲載していますので、ぜひご覧ください。

三菱電機東京2020スペシャルサイト

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/tokyo2020/>





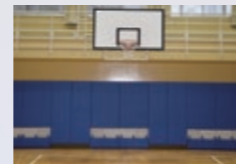
障がい者スポーツ 練習場所提供

当社情報技術総合研究所(神奈川県鎌倉市)の体育館をバリアフリー化して、関東車椅子バスケットボール連盟所属のチームに練習場所として利用いただいています。

* 当社は、2016年3月に、一般社団法人関東車椅子バスケットボール連盟との間で、三菱電機大船体育館に関する利用協定を締結しました。



玄関スロープと自動扉



フッションフェンス



車いすバスケットボールの大会協賛 「三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP」

当社は、「三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP」に特別協賛いたしました。この大会は、当社がオフィシャルパートナー契約を締結している公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟が主催している国際大会であり、2017年からの3年計画で、車いすバスケットボールの男子日本代表チームの強化のほか、大会を支える審判員やテーブル・オフィシャルズ、競技ボランティアの育成を目的に開催されました。

2018年、2019年は、東京2020パラリンピックの車いすバスケットボール等の予選トーナメント会場であり、当社製品も納入されている、武蔵野の森総合スポーツプラザで開催されました。

2017年に7,679人だった来場者は、2018年は12,867人、2019年は22,547人と大幅に増加しました。こうした活動を通じ、当社は車いすバスケットボールの普及・啓発や障がい者スポーツファンの拡大に貢献しています。



大会関連施設への製品の納入

大会関連施設や交通・ホテル・商業施設等へ当社製品を通じて貢献しています。

武蔵野の森総合スポーツプラザ

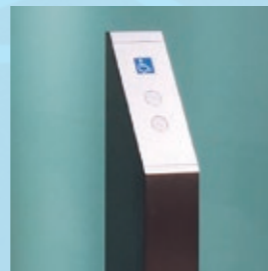
東京・調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザは、東京2020大会では車いすバスケットボール等の会場になります。本会場に納入された当社製エレベーターは、設備のバリアフリー化を支えています。例えば、車いす利用の方が操作しやすい「自立型操作盤」、聴覚障がい者向けの「点滅ランプ」、外国人向けの「日英2言語音声ガイド」などの機能もっています。



武蔵野の森総合スポーツプラザ外観



東京都最大面積を誇るメインアリーナ



車いすの方にも操作しやすい自立型操作盤

三菱電機は、2020年度以降の持続的成長に向けて取り組む中で、全ての企業活動を通じ、企業理念にある「活力とゆとりある社会」のひとつの姿である共生社会の実現に貢献してまいります。

会社概要

社名	三菱電機株式会社
所在地	〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 東京ビル
設立	1921年1月15日
資本金	175,820百万円

役員

取締役

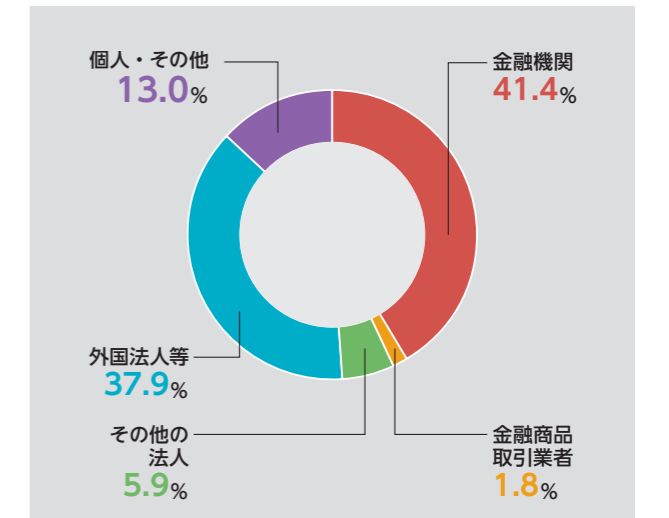
取締役	柵山正樹	取締役会長
	杉山武史	
	大隈信幸	
	松山彰宏	監査委員長
	佐川雅彦	監査委員
	原田真治	指名委員、報酬委員長
	皮籠石 齊	報酬委員
社外取締役	藪中三十二	指名委員、報酬委員
	大林宏	指名委員長、監査委員
	渡邊和紀	監査委員、報酬委員
	小出寛子	指名委員、報酬委員
	小山田 隆	指名委員、監査委員

執行役

代表執行役社長	杉山武史
代表執行役副社長	大橋 豊 輸出管理、インフォメーションシステム事業担当
代表執行役専務執行役	大隈信幸 経営企画、関係会社担当
専務執行役	伊藤泰之 ビルシステム事業担当
	漆間 啓 社会システム事業担当
	加藤 恒 産業政策渉外、輸出管理、知的財産渉外、知的財産担当
常務執行役	西村隆司 通信システム事業担当
	岡村将光 半導体・デバイス事業担当
	藤田正弘 IT、開発担当
	松下 聡 国際担当
	大西 寛 自動車機器事業担当
	宮田芳和 FAシステム事業担当
	松本 匡 リビング・デジタルメディア事業担当
	永澤 淳 宣伝、国内営業担当
	原田真治 総務、人事、広報担当
	皮籠石 齊 経理、財務担当
	室園孝和 監査、法務・コンプライアンス担当
	織戸浩一 電力・産業システム事業担当
	四方 壽一 資材担当
	原 芳久 電子システム事業担当
藪 重洋 生産システム担当	

株式情報

発行可能株式総数	8,000,000,000 株
発行済株式総数	2,147,201,551 株
株主数	121,287名
株式所有者別分布状況	



大株主の状況(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	169,766千株	7.9%
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	125,826千株	5.9%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	108,615千株	5.1%
明治安田生命保険相互会社	81,862千株	3.8%
日本生命保険相互会社	61,639千株	2.9%
三菱電機グループ社員持株会	42,588千株	2.0%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7)	40,614千株	1.9%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	40,060千株	1.9%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	36,252千株	1.7%
JP MORGAN CHASE BANK 385632	35,862千株	1.7%

(注) 持株比率は自己株式(426,074株)を控除して計算しております。

株式事務のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会議決権行使株主確定日	3月31日
定時株主総会開催時期	6月下旬
剰余金の配当支払株主確定日	期末配当金：3月31日 中間配当金：9月30日

公告掲載ウェブサイト

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/ir/library/01.html>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

配当金のお支払いについて

- 配当金は、定款の規定により、支払開始の日から満3年を経過いたしますと、お支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。
- 支払開始の日から満3年を経過していない未受領の配当金については、株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)にてお支払いいたします。
- 2019年度の間配当金につきましては、1株当たり14円(税込み)お支払いすることといたします。「配当金領収証」にてお受取りの株主さまは、2020年1月10日(金)までにゆうちょ銀行でお受け取りください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先

東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

郵送先

〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

住所・氏名の変更、配当金の受領方法の指定・変更、単元未満株式の買取り・買増し請求等の手続きのご案内

- 原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承りますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

ご注意 特別口座をご利用の株主さまへ

- 特別口座に記録されている株式を株式市場で売却したり、特別口座を通じて株式市場にて株式を購入することはできません。
- 特別口座に株式をお持ちの株主さまがお取引をされる場合には、あらかじめ一般口座への振替が必要になります。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。

投資家情報サイトのご案内

最新の決算情報など、経営に関する様々な情報を随時掲載していますので、ぜひご覧ください。

三菱電機 投資家情報 検索

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/ir/>



IR情報メール配信のご案内

最新のニュースリリースやホームページの更新情報などをお届けいたします。当社投資家情報サイトからご登録いただけますので、ぜひご利用ください。

投資家情報サイト▶便利機能▶IR情報メール配信

三菱電機イベントスクエア「METoA Ginza」のご案内

東京・銀座の三菱電機イベントスクエア「METoA Ginza」(メトアギンザ)では、現在「デジタル収穫祭 in Ginza」を開催中です(2020年3月4日まで)。

家電製品をはじめ、空調・冷凍・冷蔵機器、FAシステム、人工衛星などの幅広いテクノロジーによって、生産地から食卓まで、おいしさや鮮度、安心安全な食を守るなど、食のいまとこれからのを支える三菱電機グループの取り組みをご紹介します。

お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。



METoA Ginza 外観



METoA Ginza
住所: 東京都中央区銀座5-2-1 [東急プラザ銀座]内